

「西中スタンダード」で生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす



前原西中学校は地図で見ると、糸島市全域の中心付近に位置します。令和元年度の生徒数は約710人と市内最多。加布里、前原、南風、東風の4つの小学校区に住む仲間たちが共に学校生活を送っています。

学校生活の要である授業では、令和元年度から全教科で課題解決型授業の導入に力を入れています。この授業では、まず生徒一人ひとりが教師から与えられた課題の解決方法を考え、ノートに自分の考えをまとめます。その後、生徒同士で4人ほどのグループを作って意見交換をします。他の人の考えを聞きながら、生徒たちは自分の考えを見直したり、深めたりしていきます。この授業スタイルに「西中スタンダード」と名付け、生徒も教師も早くなじめるよう、進め方やルールは統一。西中スタンダードに基づいた授業を通して、生徒

たちの思考力・判断力・表現力を伸ばし、意欲的に課題に取り組む生徒を育てています。

前原西中学校では地域でのボランティア活動にも力を注いでいます。小学校の運動会や校区文化祭の手伝い、多久川の清掃などさまざまな活動を実施。令和元年度からは校区内のJR各駅で、朝のあいさつ運動も始めました。ボランティア活動は希望者で実施し、毎回たくさんの生徒たちが参加するそうです。日頃のボランティア活動で地域との関わりが深まり、秋に行われるPTA主催の「ふれあいバザー」には校区内にあるたくさんの店舗が協賛し、バザーの開催を後押ししています。「地域と共に成長する」—そんな学校を目指しています。



課題解決型授業で意見交換中の生徒たち
楽しみながら課題に取り組みます



朝の通勤時間帯。多くの人が行き交う
JR 筑前前原駅改札前でのあいさつ運動